

東京スカイツリー®を核としたまちづくりを総合的に支援 押上・業平橋駅周辺地区

東京スカイツリーの建設地として注目を集める当地区では、押上・業平橋駅周辺土地地区画整理組合から、組合施行土地地区画整理事業を包括的に受託するなど様々な形でまちづくりを進めています。

鉄道4線が乗り入れる当地区は、貨物ヤードとしての機能が停止した平成5年以来、都心に近い場所でありながら、低未利用地として長く再開発が待たれていました。

UR都市機構は、墨田区からの要請を受け、構想段階から事業実施段階まで、関係者のコーディネートや事業化の支援などを行ってきました。

その結果、平成17年12月、民間の土地地区画整理事業を包括受託することとなったのです。

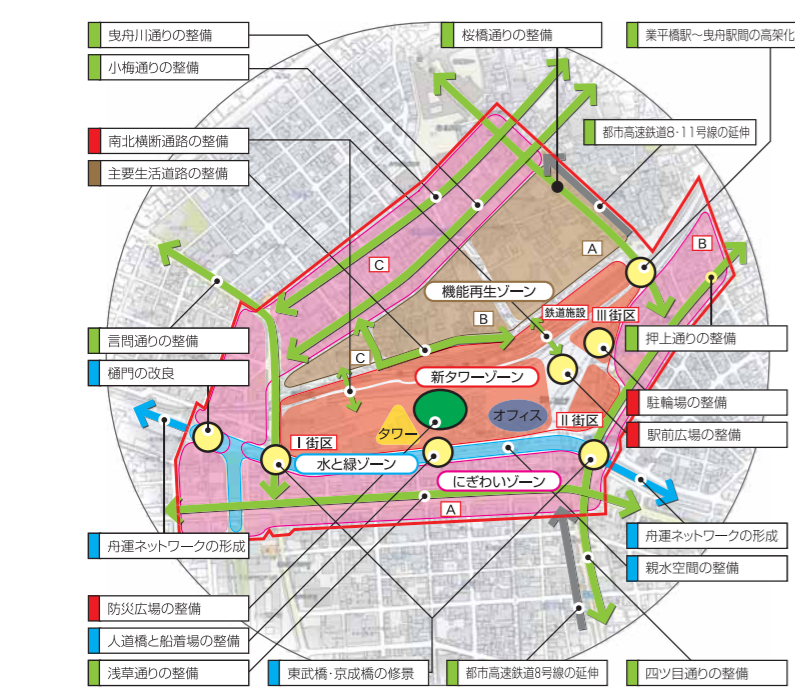
現在は、平成24年春のまちびらきに向けて、これまでに培ってきた土地地区画整理事業のノウハウを活用し、民間事業者、東京都・墨田区との調整、生コンクリート工場等の移転補償、駅前広場等の整備、周辺工事との工程調整等を実施することにより、東京スカイツリーの足元の都市基盤の整備を総合的に支援しています。

区域内整備イメージ

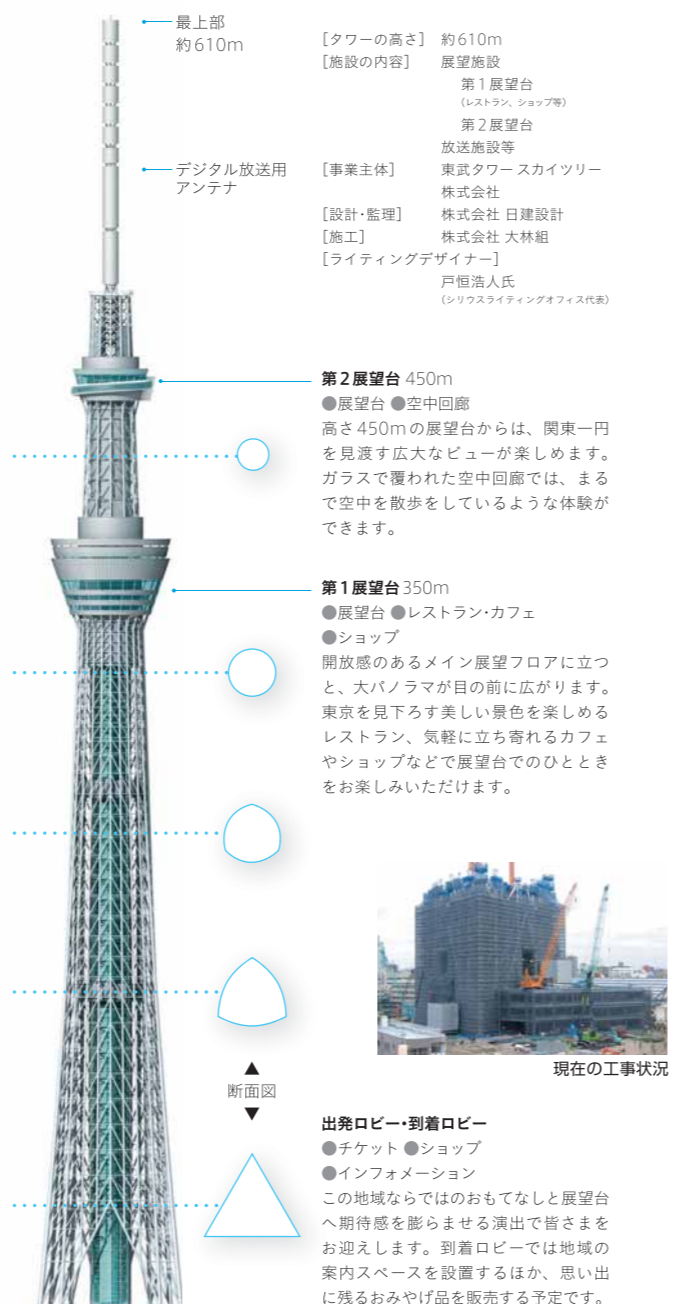


また、当地区では新タワー建設が決定した平成18年、地区周辺における新タワーを前提とした「まちづくりランドデザイン」の策定や地区南側に隣接して流れる北十間川の水辺活用構想の策定などを墨田区から委託を受け、高さ約610mの「世界一のタワーのある街」周辺一帯のポテンシャルを高める各種の計画づくりやその実現に向けた取り組みへの支援をしています。

まちづくりランドデザイン



東京スカイツリーの概要



水と緑の空間（北十間川）イメージパース



全体計画概要

所在地 東京都墨田区押上一丁目
敷地面積 約36,900㎡
施設規模 建築面積 約31,600㎡
建物延床面積 約230,000㎡ (タワー部分含む)
建物規模 地上31階、地下3階
主要用途 電波塔、展示場(展望台)、店舗、飲食店舗、ミュージアム、事務所、ホール、各種学校、地域冷暖房施設、駐車場

開発スケジュール

平成18年度 基本設計
平成19-20年度 実施設計
平成20年7月 着工
平成23年12月 竣工(予定)
平成24年春 開業(予定)

Message

戸澤 隆夫
東武鉄道株式会社 取締役
業平橋押上地区開発事業本部 副本部長

東京スカイツリーは、構造もデザインも現代日本の知恵を結集した世界に誇るこの出来る日本の新しいランドマークであり、老若男女を問わず世界中から人々が集まる場所となります。UR都市機構には、東京スカイツリーの基盤となる区画整理事業において、インフラ整備や関係権利者との円滑な合意形成に期待しています。

位置図



事業の概要

施行者	押上・業平橋駅周辺土地地区画整理組合
包括受託者	UR都市機構
施行期間	平成17年度～平成23年度
施行面積	約6.4ha
事業費	約86億円
地権者数	18名(法人4名、個人14名)
事業内容	駅前広場等の公共施設の整備改善と宅地の利用増進を行う。土地の高度利用を可能とし新しい広域総合拠点を形成

従前航空写真

